

JR東海労ニュース

No. 837

2006年 9月 5日

JR東海労働組合

作動しない遮断機を特急列車が通過 JR紀勢線

あわや大惨事！

8月29日の毎日新聞によると、

三重県紀北町海山区のJR紀勢線向井東第2踏切で27日から28日朝にかけて、列車通過時に警報機や遮断機が作動しなかったことが分かった。JR東海が現場に社員を配置するまでの間、列車2本が通過。うち特急1本は乗用車と衝突しそうになったという。同社が踏切の部品を交換し28日午前8時前に踏切は正常に戻った。

とのことである。

警報機や遮断機が作動しないことが分かってから、社員が現場に配置されるまでの間、列車は警報機が鳴らず遮断機が降りない状態で踏み切りを通過している。背筋が寒くなる状況である。このうち、特急列車の通過時には「車が踏み切りを渡ろうとする乗用車と衝突しそうになった」というあわや大惨事である。

なぜ直ちに列車を止める手配をしないのか？

名松線家城駅の危険な環境を手歯止めひとつに頼るような感覚も含め、会社の安全感覚は異常である。主任レポートなど、社員の管理ばかりを優先し物言わぬ社員作りに精を出すのがゆえに、致命的な結果を招いている。

なぜ直ちに列車を止めない？
会社の安全感覚に異常警報！

私たちはこのような安全軽視姿勢を断じて許さない！